

データ連携SWGについて

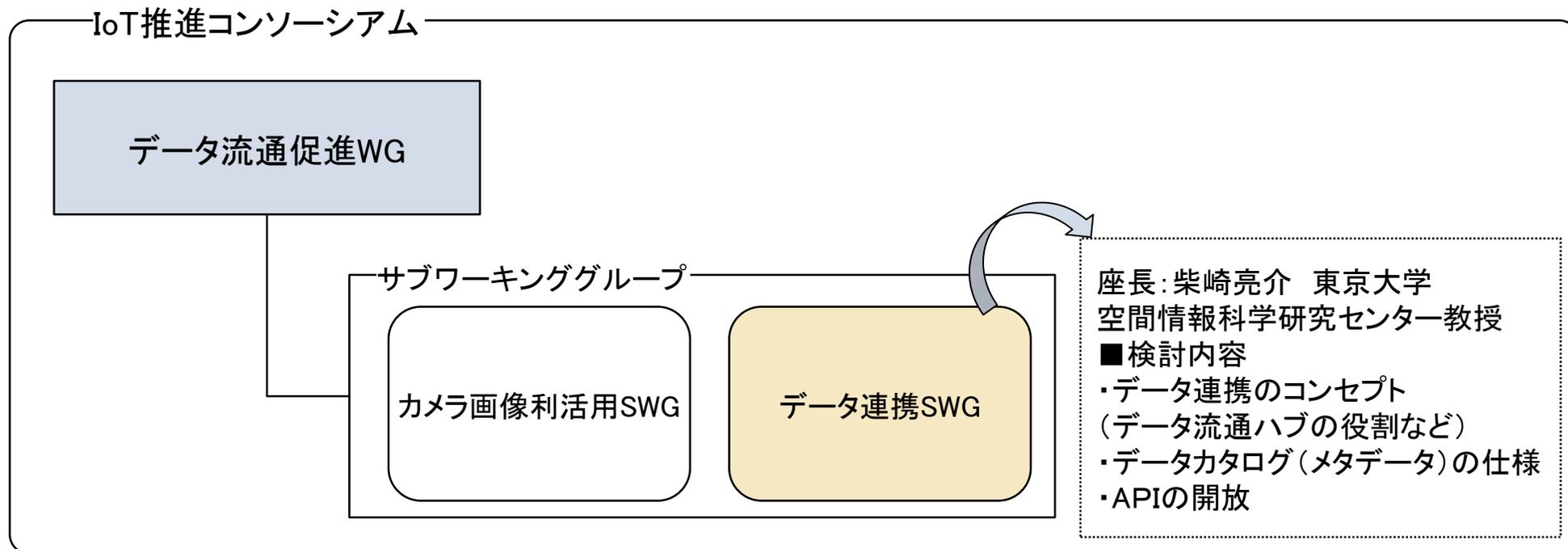
設立趣旨、進め方について

2017年2月16日

株式会社三菱総合研究所

データ連携SWGの位置づけ

- データ流通促進WGにおいて、データ流通プラットフォーム構築に関するルール整備等の議論が行われ、データ流通市場の立ち上げに向けた機運が高まっている。そのため、データを収集、提供するデータ流通プラットフォーム、あるいは相互に連携して、データ流通を促進するために必要な役割、機能、ルール等について検討。

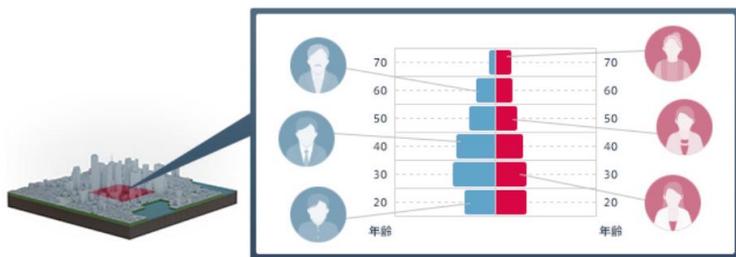


設立背景(1)データホルダーの、保有データ利活用意欲の向上

■ 各事業者が所有データを外部と連携し、何らかの価値に繋げようという取組が増えている。

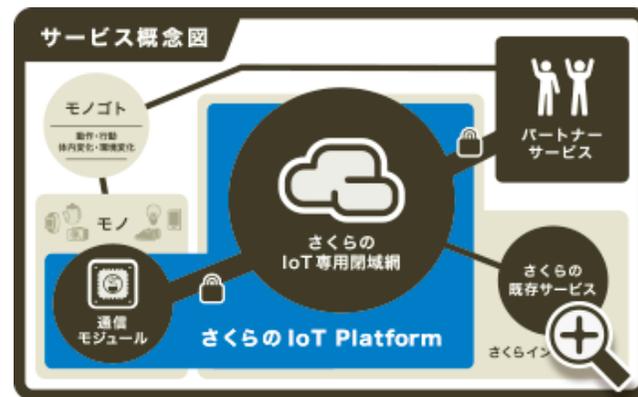
モバイル空間統計

携帯電話からのデータを集計した統計データを販売



さくらインターネット

IoTプラットフォーム上のデータを、他サービスに連携



G空間情報センター

位置情報とそれに紐づけられたデータを公開、販売

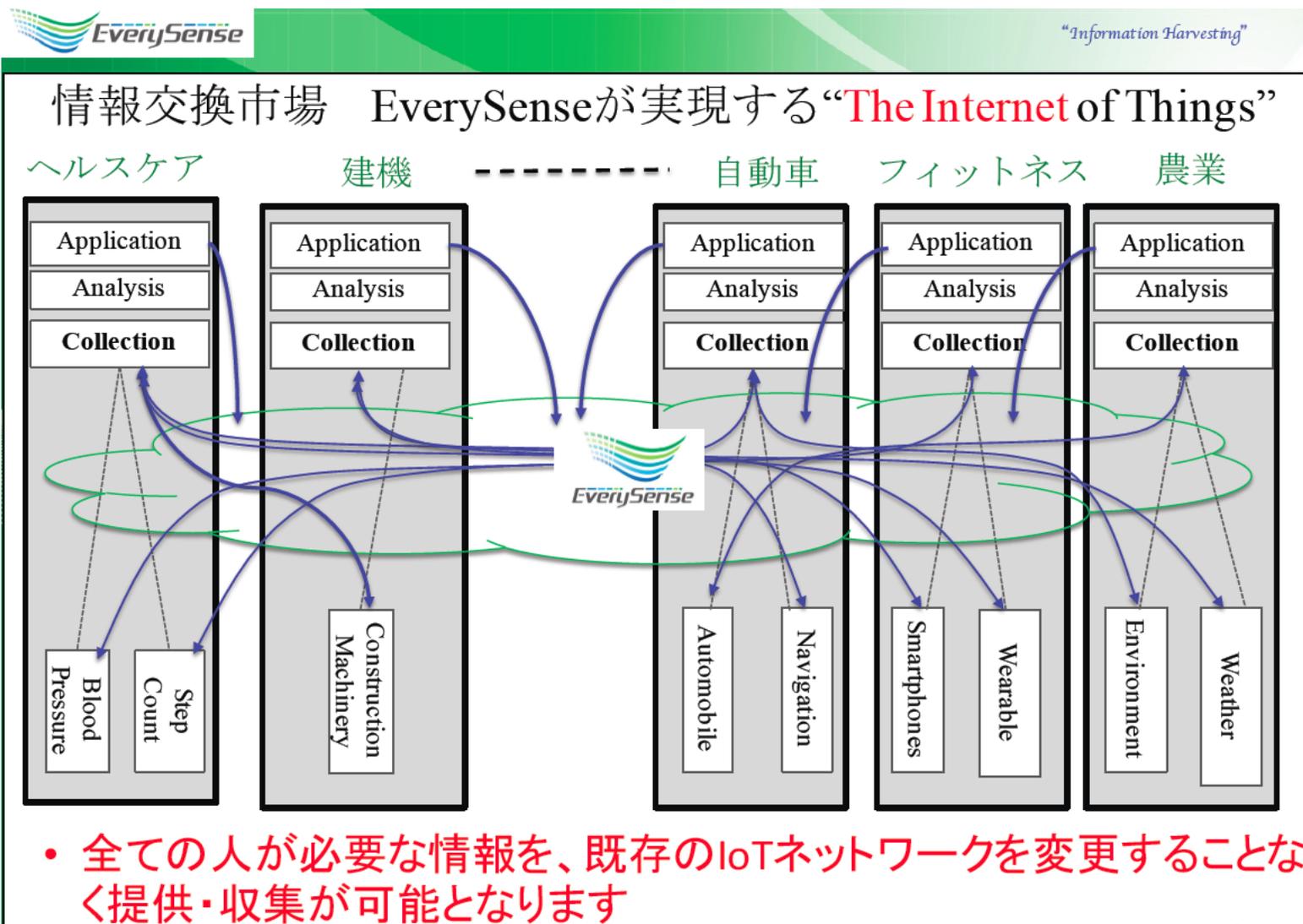


RESAS

産業構造や人の流れ等の官民ビッグデータを集約、可視化



データ流通プラットフォーム事業例(1)エブリセンスジャパン



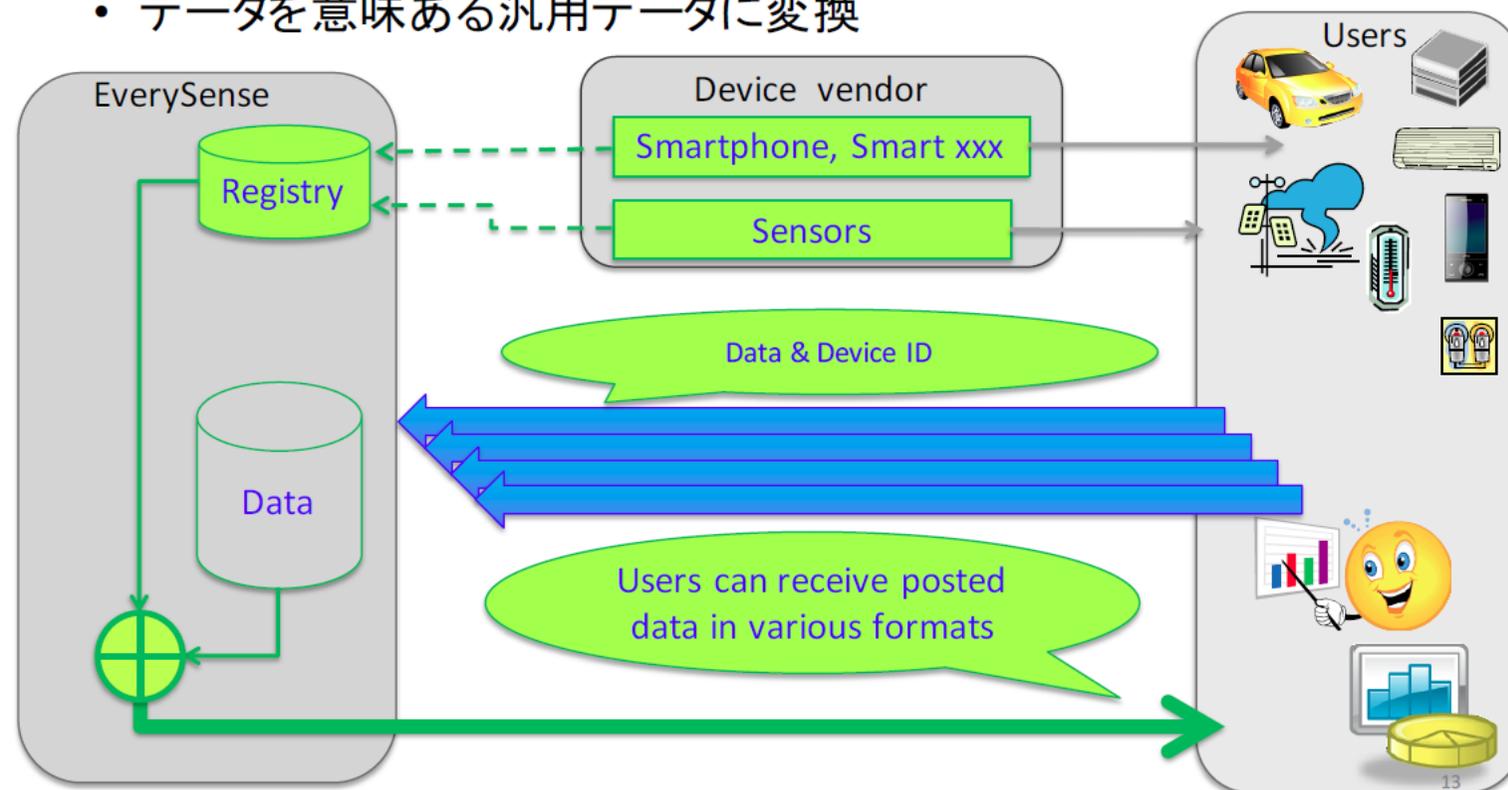
データ流通プラットフォーム事業例(1)エブリセンスジャパン



"Information Harvesting"

相互接続性の提供の技術的な仕組み

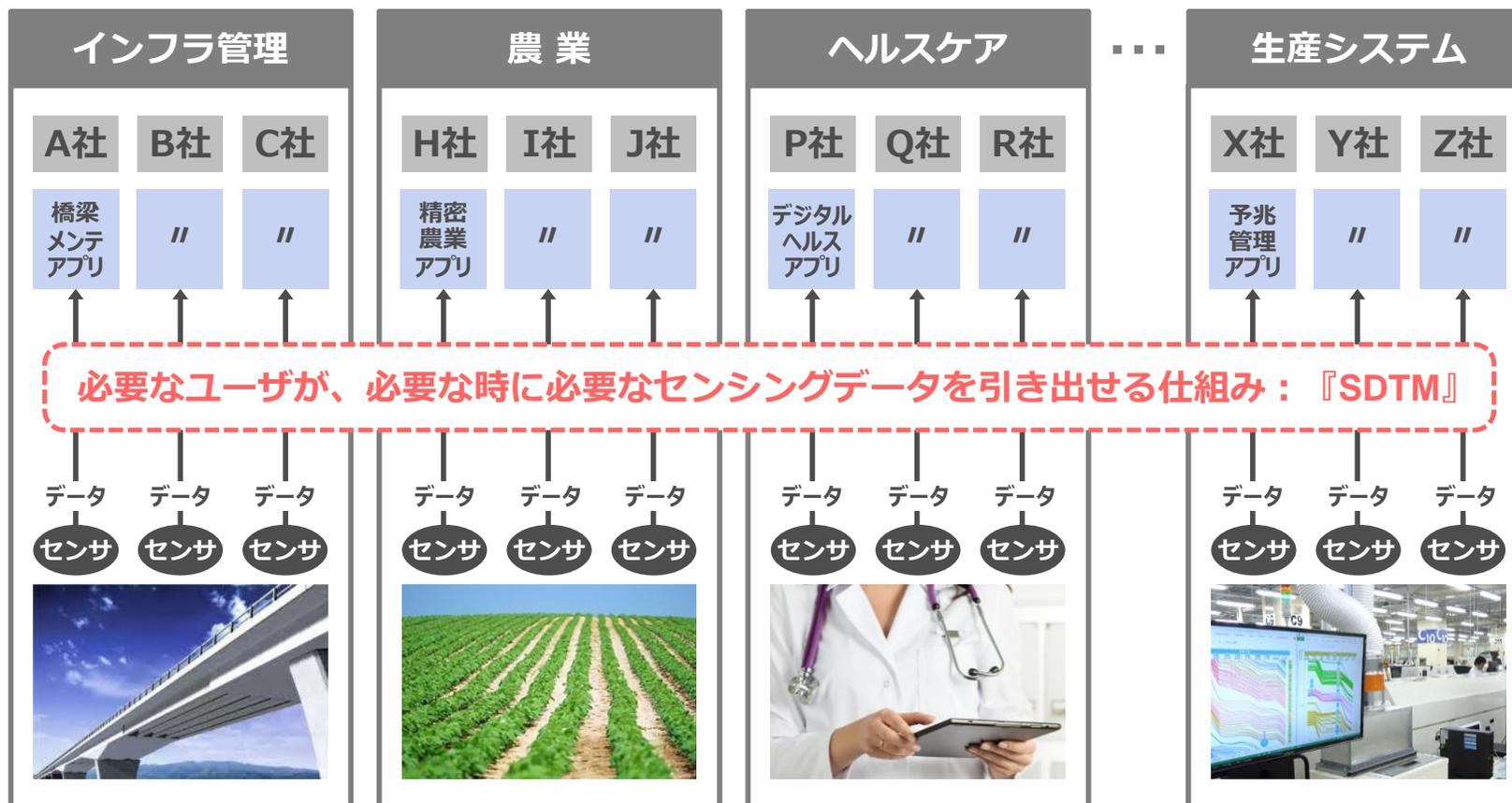
- データとデバイス依存の情報を分離する
- オープンなデバイスデータベースを提供
- データを意味ある汎用データに変換



データ流通プラットフォーム事業例(2)オムロン株式会社

オムロンが究極的に目指す「理想の姿」

様々な企業／業界を越えてセンシングデータが自由に活用される世界



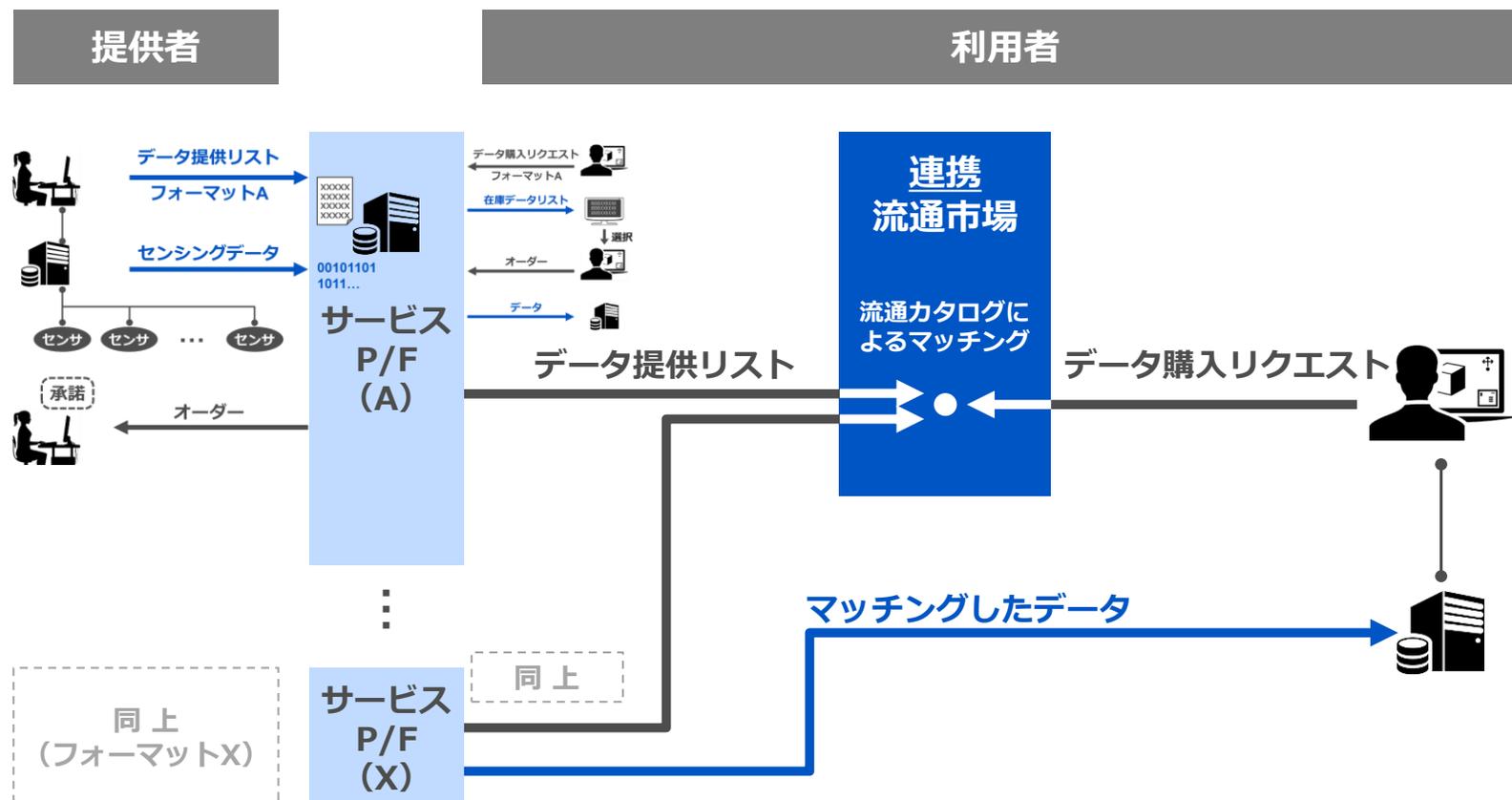
注：SDTMはSensing Data Trading Marketの略

OMRON

© OMRON Corporation All Rights Reserved 2

データ流通プラットフォーム事業例(2)オムロン株式会社

【ステップ②】 PF間を連携した流通市場



データ流通プラットフォーム事業例(3)データエクスチェンジ コンソーシアム

株式会社日本データ取引所



設立の趣旨

raison d'être

- 株式会社日本データ取引所（以下：J-DEX）は、データエクスチェンジコンソーシアム（以下：DXC）の実績を踏まえ、「**企業間のデータエクスチェンジを通じて新しいビジネス＝高い付加価値を創出する**」事を目指し、2016年2月12日に設立されました。

- データエクスチェンジコンソーシアム (DXC)とは
2014年4月より延数で100社余が参加し企業間のデータエクスチェンジを実践するために必要な知見を共有すると共に、環境整備やガイドラインづくりを推進する「場」となることを目指し活動している組織。

データ取引プラットフォーム事業



データカタログサイト(今月オープン)

- 企業が保持する各種データの概要情報を検索できるサービス



data exchange
consortium

データエクスチェンジコンソーシアム

- 企業間データ流通の共同研究会を受託運営
- 約40社の企業と実証実験を進めています



データ取引所（準備中）

- オンラインでデータ売買できるシステムを開発中

データ連携SWGの目的

■ 現状の課題

エブリセンスジャパン、オムロン、データエクステンジコンソーシアム等、「データ流通プラットフォーム」構築を目指す事業者が現れているが、限定された領域でのデータ流通・利活用となっている。そのため、データを利用したい事業者(=データ利用者)は、様々なデータ流通プラットフォームやデータホルダーの中から利用したいデータを見つける必要があり、下記の点が問題となっている。

- ① プラットフォームが散在しており、適切なプラットフォームを選択しなければならない。
- ② 各プラットフォームで登録されているメタデータの形式(=データカタログの形式)などが異なるため、利用したいデータの検索が負担である。
- ③ 提供したデータの流通・利活用が広がっていないため、データ提供者がデータを提供するインセンティブがつかない。等

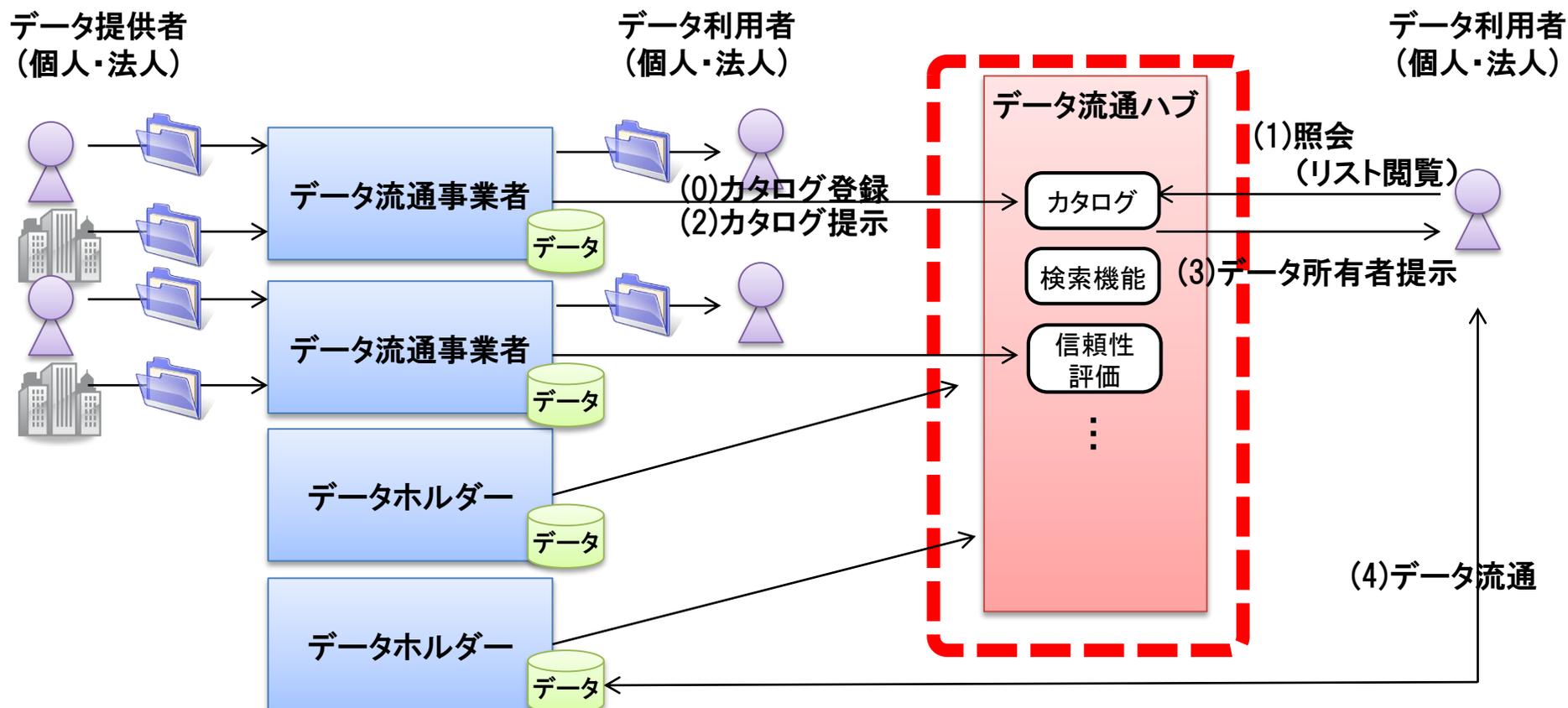
■ 目的

データ流通プラットフォーム構築・運用を目指す事業者、又はプラットフォーム間が相互に連携することで、データ流通・利活用の促進が期待される。本SWGでは、データ提供事業者への市場参加を促しつつ、データ流通プラットフォームやデータホルダーの連携における最低限のルール(≒ガイドブック仮)を定める事を想定。

- データ流通プラットフォームやデータホルダーの連携によるデータ流通市場の在り方を整理
- プラットフォームの連携を可能とする仕組み(データ流通ハブ)に必要な機能などを整理

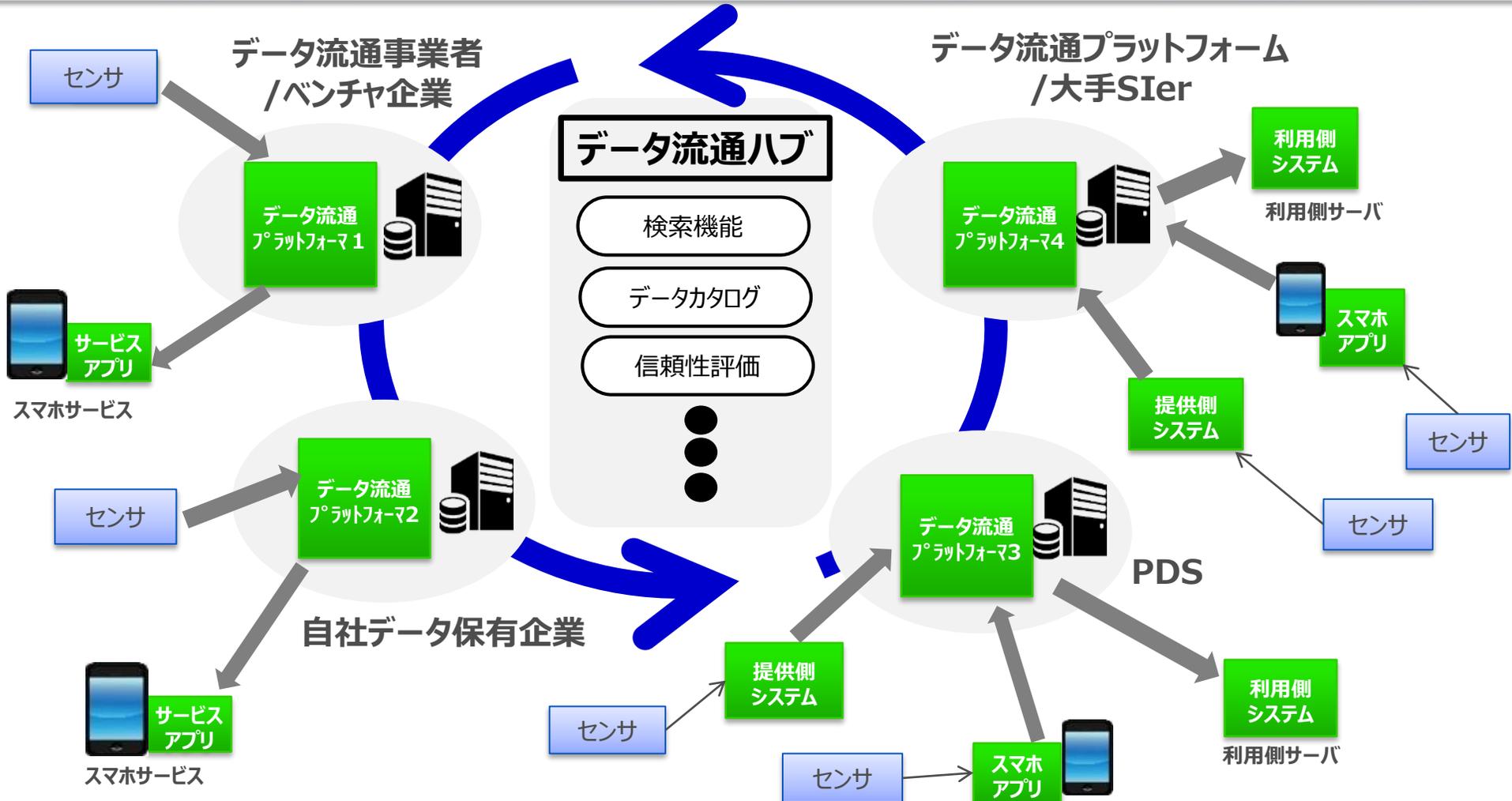
データ連携における「ハブ」の必要性

- データ流通事業者、データホルダー等の間で、データの照会、流通を相互に行う仕組み（ハブ）が必要。
- 「ハブ」の実現には、データカタログの形式と、事業者間のAPI開放等の合意形成が必要。
- データ利用者は、「データ流通ハブ」が持つカタログや検索機能等により必要なデータの入手先を知り、要望を出したデータを手入、活用することが可能。



データ連携SWGが目指すべきデータ流通市場の在り方

- 「データ連携ハブ」によりデータ流通プラットフォーム間で連携し、データが相互に活用される。
- 「データ連携ハブ」は、データホルダー型などの各データ流通モデルとの相互連携が可能。



本SWGのアウトプットについて

- 本SWGでは、データ連携の在り方に関するガイドブック(仮)を作成する。ガイドブック(仮)は、データ流通ハブに最低限必要となる機能やデータカタログの在り方等を記載したものである。
- ガイドブック(仮)の構成は、以下を想定。

1. 背景・経緯
2. 検討目的・スコープ
3. データ流通プラットフォームの連携に向けて
 1. データ流通ハブの定義／要件／課題
 - ・データ流通ハブの必要性(データ提供者、データ利用者のニーズ整理)
 - ・データ流通ハブが有する機能の整理
 2. データカタログ(メタデータ)の在り方
 - ・データカタログ(メタデータ)の必要性
 - ・データカタログ整備、標準化(共通化すべきメタデータ)
 3. APIの在り方
 - ・システム間連携／APIの重要性、
 - ・データ流通ハブにおいて必要なAPIの在り方
4. データ流通市場の活性化の方策／ロードマップ
 - ・協調領域／競争領域の整理、共通に目指すべき目標
 - ・実証を通じて検証・検討すべき項目

データ連携SWGの進め方

- SWGでは、有識者、データ流通PF、データホルダー、データ利用者が議論に参加を促しつつ、最低限のルール・指針についてコンセンサスを得る事を想定。
- ただし、データ流通事業者各社のビジネスモデルについては主要な議題とはしない。

第1回（2月16日）

- 本SWGの位置づけ、進め方について
- データ連携・データ流通市場の在り方
- データ連携ハブに求められる機能
- データ連携に必要な機能、データカタログ・メタデータ・APIの必要性

第2回（3月15日）

- 前回のご指摘を踏まえた論点整理
- データカタログ・メタデータ・API等に関する連携の進め方について

本日の進行について

- 利用者のニーズに基づいて、データ流通事業者、データホルダーに対する最低限のルールや指針、連携の必要性、連携方法について議論を行う。
- 第2回までに本日の意見を集約、整理し、ガイドブック(仮)としてまとめる。

1. データ流通事業者、データホルダ間での連携
 1. 各社資料を参照しながら、流通事業者のニーズや課題、連携のあり方
 2. データ利用者、データ提供者が課題と考えている点
 3. 連携に必要な機能、データ流通ハブの仕組み、あり方
2. データ流通ハブが保有するデータカタログ、メタデータ項目のあり方
 1. 既存事例を参考にした議論
 2. 標準化・共通化すべきメタデータ項目
3. データ流通事業者内外でのデータ連携するための仕組み
 1. 既存事例を参考にした議論
 2. APIを通じて利用ニーズのある機能
4. 座長によるまとめ